

裏面の話題

みんなの居場所の裏面は、小学生にとって必要ではないかと思う問題、漢字、語、慣用句等々を載せていきます。ご家族の団らんの話題にしてみてください。会話が広がります。

令和7年7月14日(月)

みんなの居場所

雑感「寄の添心」

P.T.A講演会で戸田俊文先生のお話を聞いていてこんな言葉が浮かんだ。「アサーティブ・コミュニケーション」自分と相手を尊重し、お互いの意見や気持ちを率直に伝える合う「コミュニケーション」のことだ。人間関係において、より良い関係を築くために重要な方法である。アサーティブ・コミュニケーションは、単なるスキルだけではなく、相手を尊重する心構えが大切だ。言い換えるならば、相手の心に寄り添っていくことだ。

会話の中でそんな言い方をしなくてもいいじゃないか……と感じることはないだろうか。これは相手の気持ちに寄り添うのではなく、あくも自分の意見や感情を押し付けている。結果的に人間関係が悪くなってしまふ。相手の意見や感情を理解しようとする、共感することが大切な。自分の意見だけを押し付けた結果だ。

良好な人間関係の構築のためには、相手を尊重しながら、自分の意見を伝えるスキル、いわゆるアサーティブな視点に立った言動のチョイスが必要不可欠である。

雑感「学び続ける心の大切さ」

「二十歳であろうが八十歳であろうと、学ぶことをやめた者は老人である。学び続ける者はいつまでも若い。人生で一番大切なことは、心の若さを保つことだ。」

ヘンリー・フォードの言葉だ。日常生活を送っている知らないことが結構多いというのに気付く。私は教師という仕事とさまざまな解つておらず、ましてや世の中のことは知らないことが多い。でも、少しばかり自分の生活がうまく流れ始めると、天狗になって初心を忘れ、自分がやっていることは間違いない、正しいことなんだ。周囲の意見を素直に聞く「聞く心」を持たなくなってしまう時がある。こんな時「学び続ける心」は忘れていく。ヘンリー・フォードに言わせるとそれはそのまなは「老人」なのだ。今の生活に満足して、困らないから別に勉強しなくてもいい。……という話を耳にする。この考え方は絶対にダメだと思ふ。私に「保護者として自分の子どもには、学び続けることについてよく伝えていく。今でも自分が持っている知識で、将来の自分を支えていくことができたろうか。

ヘンリー・フォードのこの言葉は「学び」によって、充実した毎日を送る。」ということを伝えているのではないだろうか。私の価値観を押し付けてお説にはいかないが、学びとは楽しく、感動的で、生活に潤いを与え、自分を大切にすることだと思ふ。特に、自分の職種以外のことを学ぶことはとても刺激的で、良い影響をもたらす。私は20代30代の頃は、教育書を多く読んでいた。仕事のスキルを上げていきたかったからだ。今でも仕事のスキルアップは続けているが、最近他の学びも非常に楽しい。社会人となった教員たちと酒を飲む機会においては、様々な話を聞くことができる。私は教育現場での経験による学びしかない。教員たちの話からは、自分が思うよりも狭い見識しかないと思ふ。まだまだ学びの途中だ。

シリーズ「自分を語る」#27

2度目の教員採用試験も半分は諦めていた澤田青年は、運動公園でテニスをしてストロス発散していました。その頃、自己には採用試験の可否の通知が……。

どうせ今年もダメだと思っていました。それを忘れるようにフケットを振り回しました。自己には予想通り、教育委員会からの封書が届いていました。どれ位の厚みがあったのでしょつか、家族しか知りません。一次試験の結果は……待ちきれなかった父は封書を最初に確認していました。テニスから帰ってきた私は、震えながら結果を見ました。確かこんな文だったと思います。「平成27年度教員採用試験者選抜審査二次審査結果のお知らせ」すなわち一次合格の通知です。当時は、二次試験に合格すれば一次試験では始て不合格はありませんでした。だからと言いますか、私も二次試験なんて、回をやったかさえ覚えていません。二次試験の場所も忘れてしまいました。(二次試験は県立第一高等学校で、この頃から、ふつやへ目の前の子ども達に全責を盡き向きふつになりました。採用試験の勉強に使っていた時間は、全て学級の事に費やすふつになり、休み時間も職員室には帰らず、常にふつやと一緒になっていたを思い出します。

当時ふつやがむいむいに教科指導や部活動に関する本を読んだことを思い出します。読んだというより、本に書いてあることを真似していたという方が正しいかもしれません。でも、今は今になって考えれば良かったと思います。あの頃何にもなかったら、今も同じふつに何もなかったと思います。自分で言うのも変ですが、向上心が身に付いたのはあの頃だったふつです。自分は、同級生より遅れているんだ。楽な道に進んだから、意欲にならないと書いていけない。「ななて考えなくて、ちょっと思慮な感じの20代前半の澤田でした。

一次試験の合格通知が来たのは、10月の終わりの頃でした。平成27年度教員採用候補者名簿に登録されました。……という通知に、気持ちが少し楽になったことを思い出します。「親に世話にならずに済む」という思いでふつや、今でも両親には世話になりたくないのです。

順調に流れていた平成27年度の3学期、私は体調を崩してしまいました。市教委の学校訪問で初めて本格的な検診票を書いたのですが、この頃は絶対に何か結果を出さずと躍起になっていて、体にも相応な負担をかけたようでした。少し風邪気味だった私は朝長坂まで薬を飲んだり、病院で点滴をうちながら仕事をしだしてしまいました。これが体に悪くないわけがありません。……ふつや、ある日の夜中、「強烈な便意」で目を覚ますことになりました。平成27年2月3日午前3時頃の事です。これまで経験したことのない感覚です。酷い腹痛。それに……トイレに行き用を足して、布団に入ろうとした時、また腹痛が襲います。説明できないのですが、普通の便秘から分るくらいの間隔で襲ってくる……言ったらイメージがわきます。……ふつや、気温は部屋の中は冷え冷え度くらいでした。徐々に体が冷え、何度も何度もトイレとの往復をするので、体には震えが来ていました。どうしようもないので、こたつで寝ることにしました。この時は想像ができませんでしたが、実は震えには別の原因もあったのです。(つづく)